

平成30年度 第1回総合教育会議

学校における防災訓練の状況 ～栗林小学校での取組～

■ 実施にあたっての課題意識

- ・防災に対する意識が低い児童や大人がいる
 - 震災の体験者との交流を継続する
 - 日常の避難訓練や集団行動で意識化する
- ・自主防災組織のカバー率が低い
 - 地域と保護者をつなぐ防災訓練を意図する
- ・児童の自助意識は日常的に培っているが、公助は、ということ、具体的にどうすればいいかわからない
 - 公助ための知識・技能をつける
- ・保護者の防災意識が低い
 - すべてを児童と一緒に訓練する

■ 年間を通して

震災体験者の教えを引き継ぐ

避難訓練は、対応力を試す訓練と位置付ける

■ 防災訓練の学習計画 全員で 児童と保護者で

1・2年

家の中での防災対策

保存食の試食・生活用品づくり

3・4年

防災マップづくり

初期消火、地震体験、バケツリレー

5・6年

地震や津波のメカニズム

AEDの操作、応急措置方法

地域の訓練と児童の訓練を一緒にし、地域と保護者をつなぐ



自助の次は、公助の技術を身に付ける





自助の次は、公助の技術を身に付ける、保護者も

地区児童会を、学級担任と保護者が共に行う



集団下校を、保護者も一緒にし、危険箇所をチェック



午後からは、避難所ごとの防災訓練を実施



■ 今後の課題

- 地域の自主防災組織との連携は強いが、消防局以外の行政とのかかわりをどのようにしていくのか
- 児童生徒や保護者の防災教育の場、としての役割は果たせるが、避難所としての役割を、どのようにするのか。
- 防災マニュアルの不断の見直しを図るための高度な専門的指導をどのように得るのか。